

- 納涼祭の復活に向け、議論伯仲
- 令和5年度 港南区 運営方針
- LINE 回覧の登録状況

納涼祭の復活に向け、議論伯仲

今年の納涼祭は大変です。3年ぶりの納涼祭復活ということで、多くの人が納涼祭の復活に期待を寄せています。

しかし一方では、今まで頑張ってきた高齢者の方々も若者に託して引退する人も増えていて、それによるノウハウの伝承が問題になる所も出て来ています。

そして、働き方の実態も今大きく変わりつつあります。従来からの正規・非正規の問題に加え、夫婦の働き方の改善も大幅に進みつつあります。「ジョブ型雇用」といった新しい雇用形態への動きも着実に増えており、さらに高齢者の介護や孫の世話といった全世代の人々が忙しく生活する状況になり、納涼祭に向けた役員の活動にも大きな制約を受けつつあります。

一方では、新型コロナの感染症の分類がこの5月8日より「第5類」に移行されたことで、新型コロナは毎年流行するインフルエンザと同じ分類になり、その対策は個人の責任ということで、より厳しい注意が求められるようになりました。

※ 「新しい納涼祭」への期待

こういうことで多くの事柄が納涼祭の復活に合わせて起こり、私たちにその解決を求められるようになりました。そして役員会の中でも「新しい納涼祭」への期待が着実に高まりつつあります。しかしそれは新しい時代への「生みの苦しみ」に耐える時代でもあります。取り敢えず5月の役員会では開催日を8月5日の1日にする方向で収束し、他の問題についても役員の「納涼祭の方向づけ」に関する意見調整を行って集約を図ろうとしています。新型コロナ対策はなくても良いのか、ワンタッチ式テント等の新技術の採用によってボランティアの数をどれだけ減らせるのか、「新しい納涼祭」に向けた新企画の遊びがどれだけ用意できるのか、そういった色々な課題について、今役員は真剣に考え答えを出そうとしています。

令和5年度 港南区 運営方針

新任の栗原港南区長が、ひざり連合の会議に出席され令和5年度の港南区の運営方針を説明された。



「協働による地域づくり」を重点に、下記5施策を提示された。項目自体が例年から変わるわけではないが、特に「協働」を意識した取り組みが強調された。

- 施策1 安全・安心のまちづくり
- 施策2 見守り・支え合いのまちづくり
- 施策3 誰もが元気で健やかに暮らせるまちづくり
- 施策4 住み続けたいまちづくり
- 施策5 正確・丁寧な行政サービスの提供

特に施策5では、**～プラスデジタルの取組～**として、各種のデジタルサービスの活用を推進し、「時間を生み出し区民の皆様と向き合う時間を増やす」ことに努力すると強調されていた。LINEを使った色々なサービスも着実に増えていくことが実感される所信表明だった。

LINE 回覧の登録状況

5月から開始したLINE回覧の登録が現在進行中で、既にLINE回覧は370世帯を越え、メール回覧よりも大幅に増えていきます。未だの方も積極的なご登録をお願いします。

LINE回覧の登録ページはこちらから
<https://higiriyama.org/?p=1935>



今月と来月の予定

- 部長会、役員会：納涼祭の実施方法を議論し、決定します。
- 6月：一斉清掃(6/25 予定)：自宅周辺の清掃と公共場所の清掃をまとめて実施へ。

発行責任者：山本利昭
HP：<https://higiriyama.org>
ご意見：info@higiriyama.org

